

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

# JAPAN NOW

## 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第67号 発行日2009年9月28日

### Contents

札幌で11月にフォーラムを開催	1
金沢イベントの講演内容	2
霞が関ニュース、北海道開発計画	3
アメリカこぼれ話、あんな話こんな話	4
世界遺産物語、COLUMN	5
城下町と観光、NEWSPOT	6
NPOからの提案、イタリア通信	7
お天気の話、編集後記	8



JRの超電導型リニアは、21世紀の超高速鉄道として世界から注目されている新しい乗り物である。JR東海は2025年にリニア中央新幹線の東京・名古屋間の実用化を図る計画。投資額の5兆1000億円は自己資金で賄う。写真は山梨リニア実験線でのリニアカー。

### 巻頭言

#### 札幌で11月に第5回フォーラムを開催

##### JN協会 農業・観光・道開発をテーマに

JAPAN NOW観光情報協会（松尾道彦理事長）は第5回「21世紀は大北海道圏の時代」（観光立国フォーラム in 札幌）を11月18日午後2時から札幌市のホテル「ライフオート札幌」で開く。来賓は北海道知事や札幌市長にお願いする。講師は農林中金総合研究所の佐藤社長、JR東海の須田相談役、北海道開発専門家ら3人を予定している。

フォーラムは無料で、懇親会は一人3,000円。参加人員は約250人を予定している。今回は北海道観光推進機構との共催は同機構の都合により中止し、JN協会の単独開催となった。

#### 北陸新幹線や観光・街づくりで提言

##### 金沢でJN協会と郷土振興会がシンポ

JAPAN NOW観光情報協会と郷土発展振興会（本部・金沢）は共催により9月25日、金沢市で北陸の観光振興、街づくりや北陸新幹線の長野・金沢間の建設状況、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の実用化などについてのシンポジウムを開き、講師が振興策について提言した。

JN協会の松尾道彦理事長、魚住北陸支部長の主催者挨拶のあと分家射水市長らの来賓挨拶があり、シンポジウムでは郷土発展振興会の加藤会長、JR東海の須田相談役、日中友好協会の村岡理事長、JN協会の白澤事務局長らが講演した。

（講演の内容は2面に掲載）。約150人が参加し、懇親会も開かれて盛況だった。また、須田氏から新刊書「観光」（新しい地域づくり）が無料進呈された。

#### 国土交通次官に谷口技監が就任

##### 大口国土交通審議官、北村官房長

国土交通省は7月24日、幹部の人事異動を発令した。春田事務次官が退任して後任には旧建設省出身の谷口博昭技監が就任し、国土交通審議官には大口清一総合政策局長が就いた。海上保安庁長官には鈴木久泰氏、官房長には北村隆志氏、海事局長には小野芳清氏、港湾局長には林田博氏、鉄道局長には本田勝氏が就任した。

#### 整備新幹線の総事業費は2,600億円

##### 国交省の22年度要求 観光は72億円

国土交通省は8月下旬、平成22年度予算の概算要求を発表した。鉄道局関係では整備新幹線の総事業費として2,600億円（うち国費は825億円）を要求し、このうち新規着工区間は北海道新幹線が札幌・長万部間、北陸新幹線は白山車両基地・福井間と敦賀駅、九州新幹線は長崎駅である。超電導リニアの技術開発費は6億6千万円。航空局関係では総額1,278億円の事業費で羽田空港の4本目の滑走路などを整備し、年間発着回数を40万7000回に増強する。平成22年10月の共用を目指す。観光庁関係の要求額は21年度より多い72億円を要求し、訪日外国人の2,000万人誘致に向けた計画や国際競争力の高い魅力ある観光地づくりなどに取り組む。





## 東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

### 人材と観光資源の開発で他の官庁と協力が必要

#### 国土交通省観光庁観光資源課長

久保田雅晴氏（くぼた・まさはる）

奈良県出身。88年東京大学工学部卒。運輸省（現国土交通省）入省。オーストラリア日本大使館一等書記官、近畿運輸局自動車交通部長、国土交通省総合政策局総務課企画官。08年10月観光庁国際観光政策課長。09年7月現職。45歳。



- 工学部出身で観光庁の人は、長官の本保さんが東工大の出身ですね。

そうなんです。私は役人になろうと

決めて経済職を受けました。本保長官も経済職なので一緒ということです。観光庁には地域振興課長も工学部出身であり、いまや仕事をするうえで、工学部も文科系も関係ないです。

- 観光資源課はどんなことをするのでしょうか？

06年7月にできた新しい課です。二つの柱からできています。一つは観光も人が動かしわけですので、人材の育成です。観光地などを作る人材を養成しようというわけです。観光の地域づくりを進めるための観光カリスマを100人作りしました。また、海外からの観光客を呼ぶための「YOKOSO! JAPAN 大使」を今年度末で100人任命します。二つ目は新しい観光資源を開発することです。例えばエコツーリズムとかグリーンツーリズムなどを積極的にしてゆくことです。こうした資源開発は国土交通省だけではできません。環境省や農林水産省などと緊密な連絡を取っていきます。

- 観光産業が最近、話題になっています。これについてはどのようにとりにくんでいきますか？

J R東海の須田寛・相談役が熱心に取り組んでいます。東海地方にはトヨタグループがいろいろな工場のを持っています。豊田佐吉さんの織物工場などは立派な観光資源です。今、群馬県富岡市にある富岡製糸工場を世界遺産にしようという運動があります。こうしたことも群馬県や経済産業省などと協力していかなくてはできません。

- 若い人たちの観光教育はどうなっていますか？

いまや大学では観光が目玉になっています。39大学で43学部学科ができ、4,400人が勉強しています。10年前には1,000人ぐらいですので4倍に増えています。大学だけではなく高校レベルでは今年和歌山で14回目の「全国高等学校観光教育研究大会」が開かれました。このほか小中学校の先生が集まって「観光立国教育全国大会」があり、優秀な先生には長官賞を送りました。人材教育はじっくりと時間をかけなくてははいけません。

- とところで2010年に外国人観光客1,000万人という目標は実現できますか？

09年上半期は前年に比べて - 28.6%で309万5千人です。この数字を見ても大変だと思います。しかし、09年10月には成田国際空港が2,200mから2,500mに延長になり、10年10月は羽田の滑走路が4本になります。経済も回復基調ですし、まだ希望を持って良いではありませんか？日本の国は少子化は避けられないのですから2020年の2,000万人めがけて少しでも努力をしてゆくしかないと思います。

（阿部 和義）

### 3年目を迎える北海道総合開発の動向は 食料供給力の強化や魅力ある観光地づくり

北海道の総合開発計画は平成22年度に3年目を迎えるが、国土交通省は22年度予算として総額7,080億円を要求している。この中で「北海道農水産業の特性を踏まえた食料供給力の強化」、「魅力ある観光地づくり」、「北海道の恵まれた自然環境の保全、再生」、「防災対策を通じた安全・安心社会の構築」を投資の重点化政策に掲げている。農水産業の食料供給力の強化では北海道の農家1戸当たり経営面積の広さや農地の流動性の高さなどを踏まえて農地利用の効率化のため「ほ場」の大区画化や利用集積の促進を図る。恵まれた農水産資源のより一層の供給体制をつくり、農水産物の生産、流通施設の整備を進める。

魅力ある観光地づくりでは、アジアをはじめとする海外からの注目度が増えている北海道の観光地としての魅力をさらに活用するため、空港、港湾などの移動拠点を利用キャパシティの向上を図り拠点と観光地間の快適なモビリティを確保する。北海道の自然環境の保全・再生では、ラムサール条約湿地など北海道の貴重で豊かな自然環境の保全・再生を進めるため、河川に係る自然再生事業による湿地などの回復に取り組む。防災対策を通じた安全・安心社会の構築では、北海道には自然災害に弱い地域があるので、根幹的な治水対策の実施とともに市町村が行うハザードマップの作成を支援するなどハード、ソフトが一体になった総合的な防災対策を推進する。

このほか、広域的な生活圏の形成と交流・連携の強化策として北海道の骨格を形成する基幹ネットワークの整備をあげている。例えば圏域中心都市に依存する医療環境や高規格幹線道路網の整備に取り組む。

#### 主要施策（概算要求の概要）

- (1) グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現
- (2) 地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成
- (3) 魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり
- (4) 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上
- (5) 安全・安心な国土づくり

## アメリカ・こぼれ話

### 「ウォルドルフ・アストリア ホテル」ニューヨーク

JN協会理事 北村 嵩

ニューヨークのパークアヴェニューに面して建つ、プラザホテルと並ぶ超高級ホテルであり、1977年ヒルトンホテルに買収されて今では同ホテルチェーンの旗艦ホテルになっている。昭和天皇をはじめ歴代の首相や国内外の賓客が数多く宿泊することでも知られており、マッカーサー元帥の未亡人や作曲家のコール・ポーターなど多くの著名人が住居として使用していた。元々は19世紀前半に毛皮貿易で巨万の富を築いたジョン・ジェイコブ・アスターの一族が現在エンパイアステイトビルディングの建っている5番街34丁目の場所に、19世紀末に建てた2つのホテル「ウォルドルフ ホテル」と「アストリア ホテル」とが合併して現在の名前になった。1931年、世界大恐慌下に同地にエンパイアステイトビルディングを建てる計画が発表されたのを機に現在の場所に移ることになり、当時、コロンビア大学の農場であったパークアヴェニューに面した49丁目と50丁目の間に、その当時の流行の先端であったアール・デコ様式で建設された42階建てのホテルである。このホテルは現在でも別々の出入口をもつ2つの建物が隣り合わせで建っているが、これは移築当時の「アストリア ホテル」を所有していたキャロライン・アスター夫人と「ウォルドルフ ホテル」所有の甥、ウィリアム・ウォルドルフ・アスターとの仲が良くなく、いつでも分かれられる

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

## JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。

今年4月に完成した2009-2010年度版は、日本全国のホテル約100館55,000室の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2009-2010年度版も、2010年に遷都1300年を迎える奈良平城京に焦点を当て、日本文化と国家の原点を探る第1特集と、古代以来の日本人とメディアとのかかわりを図版を中心に紹介する第2特集に加え巻頭インタビュー・ページでは、昨年ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏にご登場いただくという、多彩な内容となっています。1部2000円（送料別）で購入できます。

お問い合わせは（株）ジャパン・ナウ。

電話 / FAX 03-3536-1751



ように建築したためだと言われている。尚、ウォルドルフとは元々、初代のジョン・ジェイコブがアメリカに移住する前に住んでいたドイツの町の名前を、孫に名づけたものである。

## 官民連携で日本の新幹線売り込む

### 国交省鉄道局が国際戦略室を新設

国土交通省鉄道局は9月1日、省エネ、安全、大量輸送で優れている日本の新幹線など鉄道システムについて鉄道事業者、メーカー、研究機関と連携して海外に売り込むため「鉄道国際戦略室」を新設した。日本の新幹線は開業以来、45年間死傷者ゼロ、平均遅れは1分未満と安全性、信頼性で世界一を記録している。新幹線の国際比較でも東海道新幹線(700系)はフランスのTGVやドイツのICEよりも定員、建設費、騒音などで優位に立っている。

アメリカ政府は今年2月に全米で11の高速鉄道計画を発表して80億ドルの予算を決めているほか、ブラジル、中国、ベトナム、インド、イギリス、ロシアが高速鉄道計画を示している。鉄道国際戦略室はこうした海外の高速鉄道計画の事業展開に参入し、日本の新幹線の導入を売り込むことにした。

## あんな話 こんな話

### 鬼ヶ島でピンポン楽しもう

桃太郎の鬼退治伝説で知られる女木島（通称・鬼ヶ島）の民宿で泊まって、ピンポンを楽しみませんか。高松市で料亭「二蝶」の女将を務める徳永尚子さんが、この島にある休校中の小学校の体育館を借りて、10台の卓球台を置いた。2010年7月から10月末まで、瀬戸内海の7つの島と高松市を会場に開かれる「瀬戸内国際芸術祭」を盛り上げる一つの試みである。

「えっ、女将と卓球？」 実は、徳永さんは慶応大在学中に1965年の世界卓球選手権で優勝、世界チャンピオンとなった人。05年5月号のJN紙・観光人国記で、「二蝶」の女将として紹介したことがある。時間さえ合えば、徳永さんの指導も受けられるようだ。お問い合わせは、「女木体育協会」（087-873-0436）浜崎さんまで。（加納）

## 会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2009年11月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2009年11月25日。締め切りは11月10日。

## 【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)



「世界遺産」物語……  
**アマルフィ海岸**

近藤 節夫

つい最近世界遺産「アマルフィ」を舞台にした映画が公開され、いやがうえにもイタリア南部のアマルフィ海岸の名が日本でも知られるようになった。そもそもヨーロッパでは、海運国家としてその名は古来より伝えられ、また知る人ぞ知る断崖上の街と沿岸の絶景を恣にできる景勝の地として広く知られていた。

アマルフィ海岸の絶景は世界でいかなる海岸も及ばぬ美しさで、一度訪れたら生涯忘れられないほど人びとを虜にしてしまう。美しい海岸としては、南仏ニース、コスタ・デル・ソル、マイアミ、ワイキキやアカプルコなどが世界的に知られているが、それらはビーチの静的な美であり、躍動感をパンチで訴えるダイナミックな美しさではない。

それに比べて、中世イタリアの海運国家としてベネチアと覇権争いをしていたアマルフィには、国家建設や都市作りの面でも、また狭い路地裏にも力強い人びとの生活感のある匂いと熱気が沁み込まれ、今なお往時のエネルギーを肌で感じ取ることができる。

それに加えてアマルフィ海岸は、ティラニア湾に臨むソレント半島南岸沿い130kmに亘って、素晴らしい海岸美を見せてくれる。おとぎの国のような小さな集落をいくつか通り抜け、断崖上に固まったパステルカラーのマッチ箱のような家々が、急斜面の土

手にへばりつくように取り付いているランドスケープは、眼下に見下ろす荒々しい紺青の海とのコントラストの妙もあり、まさにメルヘンの世界と呼べる桃源郷である。

これまで、旅程にとかく制約のあった忙しい日本人観光客がアマルフィを訪れることは少なかった。近年になってスケジュールにゆとりができるようになると、ナポリとポンペイ観光から一歩踏み出し、ソレントとカプリ島を訪れるまでになった。それからさらに足を伸ばすことによって、アマルフィが射程圏内に入ってきた。世界中から観光客がどっと押し寄せた結果、ピーク・シーズンの交通混雑は頂点に達して、片道一車線の道路はいずれ規制されて行きにくくなるだろう。訪れるなら今のうちがチャンスかも知れない。

アマルフィという街の行政区には、ノルマン洋式の大聖堂と鐘楼の大きな目玉があり、さらに狭い路地を潜り抜け、漂う歴史と文化の香を身体で感じ取ることができる。

しかし、何と云ってもアマルフィの魅力は海岸沿いの街道筋の町並みと、くねくね曲がる道路上から眺める美しい海洋の景色だろう。

世界遺産「アマルフィ」こそ、世界で最も美しい海岸と呼んで決して過言ではない。

(前号でドレスデンの世界遺産登録抹消を紹介しましたが、今夏の委員会で登録抹消は1年間猶予され、今後ドレスデン市の対応を見て改めて登録抹消の賛否が決定されます)

C O L U M N

**杉野兵曹長は生きていた！**

古い話で恐縮だが、日露戦争で名誉の戦死を遂げ、軍神となった廣瀬武夫海軍中佐を称えた文部省唱歌「廣瀬中佐」1番の最後に歌われる「～杉野はいずこ～杉野は居ずや」は、哀愁を帯びた節回しが国民の胸をやるせない思いに締め付け、大いに流行った。日本画家だった祖父も大好きな節で、庭で菊作りをしながら、よく口ずさんでいたのを思い出す。

その歌詞に歌われた「杉野孫七上等兵曹(兵曹長に昇進)」は、旅順港閉塞作戦で用船「福井丸」にて行方不明になり、沈没直前まで探し回った指揮官・廣瀬中佐の部下を思う切ない気持が悲劇となり美談となって全国民の涙を誘った。

その美談の原因となった杉野兵曹長が、実は生きていたとの噂はこれまでも何度かあった。しかし、最近手にした「静岡県西部海交会」誌(平成9年1月1日)掲載の「日露戦争秘話・杉野はいずこ」によれば、かつてハイラル陸軍特務機関にいた札幌在住の横田正二さんという方が、昭和18年新京に甘粕正彦大尉を訪問した時、その杉野兵曹長に引き合わされたそうである。

日露戦勝後、朝鮮・釜山まで来て帰国のために電報を打ったところ、「軍神廣瀬中佐とともに、すでに戦死したことになっているうえに、軍神の部下という名誉まで賜って祀られている。頼むから内地へ帰らずにこのままでいてくれ」という非情な返事があった。オジと3人の子どもを抱えた妻までがそう言ったという。杉野兵曹長はやむなく満州に戻り現地の女性と家庭を持って、二人の間には多くのこどもが生まれたそうである。

これに似た話はフィリピンでも、ビルマでも仄聞した。今となつては、真相は闇の中だが、あまりにも落差の大きい運命に心が痛む。日本に残された杉野兵曹長の子息のひとり、終戦時に海軍大将となって、戦艦「長門」第32代最後の艦長だったそうである。(近藤)

## 城下町と観光

滋賀県 / 彦根城

## 井伊直継が築く

## 国宝4城の一つ

JN協会参与 長宗我部 友親



紅葉の彦根城

東海道本線と北陸本線が分離する米原駅を大津の方に向かうと、隣が彦根駅である。

彦根駅を降りると、その正面に美しい国宝でもある彦根城が目に入る。

彦根藩の基礎を築いたのは徳川家康に長く仕え、徳川四天王の一人ともいわれた井伊直政である。直政は慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦で、敵将島津義弘を追撃するなどの功をあげて、石田三成の居城であった佐和山城を引き継いだ。

しかし、直政はこの城を嫌い、琵琶湖畔の磯山に築城を考えるが、関ヶ原の戦で受けた傷がもとで、慶長7年(1602年)に亡くなる。

後を継いだ井伊直継(後の井伊直勝)が、その直政の意思を継いで、彦根山に築城する。天守閣は大津城から、西の櫓の一部などは小谷城から移築した



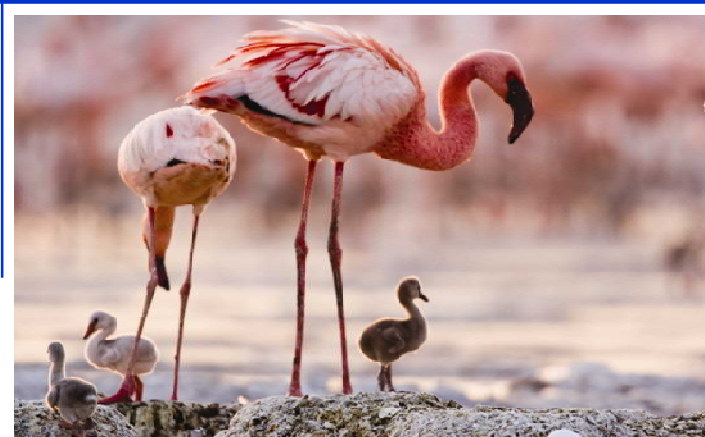
小江戸彦根の城まつり

といわれる。天守閣は三重地下1階の複合式望楼型で、最上階には廻り縁と高欄がついている。

彦根藩といえば、桜田門外で、水戸浪士らに、雪降る中、暗殺された大老の井伊直弼を思い起こす。

直弼は井伊直中の14男ではあったが、庶子の扱いをされていた。このため直中が亡くなった後は、城外の北の屋敷に移されて、家臣並みの生活をさせられている。直弼はこの屋敷を埋木舎と呼んでいた。

また、彦根藩は、浜縮緬など製品の奨励策を進めるなど、商業活動を活発に行い、城下町の発展にも力を入れた。



ディズニーネイチャー / フラミンゴに隠された地球の秘密

©Anup and Manoj Shah ©Disney Enterprises, Inc. All rights reserved

白雪姫やバンビなど名作アニメで知られるウォルト・ディズニーは初の自然ドキュメンタリー「あざらしの島」をアラスカで撮影し1949年に公開、53年製作「砂漠は生きている」はアメリカ西部の、54年「滅びゆく大草原」は中部の自然を追った。31作品中の11本がアカデミー賞を受賞。ウォルト亡きあと自然ドキュメンタリーは途絶えていたが、2004年「皇帝ペンギン」の世界的ヒットを機に新しい自然シリーズの撮影が始まった。いまや映像界は自然ものがあふれ人気を呼ぶが、ディズニーの伝統復活は大いに注目される。

(文: 林 莊祐)

NEW SPOT  
in japan

## 新ディズニー

新シリーズ「ディズニーネイチャー」の映画「フラミンゴに隠された地球の秘密」がロードショーで好評だ。自然の不思議と神秘を美しい映像で魅了する。世界のフラミンゴの4分の3がアフリカ・タンザニア北部のキリマンジャロ山近く、ナトロン湖で生まれ、餌にする藻の成分からピンク色になるという。湖の濃い塩分がまとわり付き固まり足かせになってヒナたちが天敵に襲われる恐怖も映される。

シリーズはフラミンゴに次いで、花粉を運ぶ小さな生き物を追う「ネイキッド・ビューティー」、ライオン、チーター、ヒョウの子育てを描く「アフリカン・キャッツ: 勇気の王国」、熱帯雨林の生態「チンパンジー」、知られざるファミリーの物語「オランウータンズ: 真夜中への1分」など。順を追って毎年公開の予定だ。



NPOから提案します

## ストロー現象

高崎経済大学観光政策学科教授 寺前 秀一

北陸新幹線が開業し人口四千万人を超える首都圏と直結することによるストロー現象への警戒感が沿線各都市の議会答弁においてあらわれている。ストロー現象回避等として沿線自治体では、大都市圏から地方へ来訪者を呼び込むための施策として観光に着目し、拠点として新幹線駅を位置づけ、新駅周辺整備計画検討委員会を設けて観光街づくりを検討すると答弁するパターンが普及している。2005年富山県議会本会議において富山県知事は北陸新幹線が整備されると「消費活動が東京を初め大都市へ流れやすくなるストロー現象が懸念」されるとして「未来とやま戦略会議」設け「未来とやま戦略アクションプラン」を策定するとしている。2008年の本会議においても東海北陸自動車道の全線開通、北陸新幹線の開業により、交通の利便性が飛躍的に高まる一方で、地域間競争の激化や、いわゆるストロー現象の発生も懸念されるとしている。

東京圏との適度な距離感のある金沢は余裕があるが、その他の都市は首都圏のみならず金沢への第二のストロー現象をも警戒せざるを得なくなっている。2005年石川県議会本会議において石川県知事

はストロー現象につき「いたずらに恐れおののくということであってもいけないというふうにも思うわけであり、むしろ本県の高い観光魅力などを利点として、自信を持って振興方策に取り組んでいく必要がある」と答弁し2007年6月15日には「首都圏のみならず長野との間も時間距離にして一時間ということになるわけであり、そういった沿線地域からの誘客を図っていく」と答弁し、2009年3月4日には「企画振興部に新幹線・交通対策監を置きまして、さらには部局横断のSTEP21推進本部をも設置をして全庁挙げて取り組む体制を強化」と答えている。

北陸本線は赤字であり、観光需要を喚起する必要がある。富山県においては県内で開催される学会や会議・大会等のコンベンションに参加するために県外から来県した者が、タクシーを利用して県内観光をする場合に、その料金を半額にするコンベンションタクシー助成試行制度を2008年7月から2010年3月まで実施している。また、富山県は「観光を切り口とした地域づくりを活性化させるとともに観光地の集客力の向上を図るため「とやま滞在・体験型観光モデル事業助成制度」を実施している。新幹線開業後のストロー現象への危機感のあらわれである。

## イタリア通信 その11

### ミラノのユニークな『緑化作戦』！

ミラノのシンボルともいえるオペラの殿堂、スカラ座。1986年からこのスカラ座の音楽監督、続いて芸術監督をしてきたリッカルド・ムーティが劇場側と「ケンカ別れ」をして2005年に去っていった後、後任選びが二転三転と難航してきた。

そんな中、ムーティの前任者で1969年から1986年までそのポストにあったクラウディオ・アッパードを再び招こうという機運が高まってきた。アッパードはミラノ生まれでスカラ座の国際的飛躍に大きく貢献した人物。彼もまたスカラ座とケンカ別れをしているが過去のことは水にながし、故郷ミラノに戻ってきてほしいというミラノ側の強いエールを受け、スカラ座の指揮はまっぴらと言っていたアッパードが監督就任を引き受ける模様だ。が、そのためにミラノ市に意外な条件を提示し、周囲を驚嘆させている。ミラノ市内に9万本の木を植えたら、スカラ座に戻ってきてもいいというのだ。

緑の少ない街ではオペラの指揮などできないと

いうのだ。

驚いたミラノ市長もこの提案は大歓迎ということで、早速、ミラノ市議会では、市内のどこに9万本の木を植えるのか、鉢植えか、土に直接植えるのか、予算はどうするかと、9万本の植木マップ作成をはじめている。

そんな矢先、8月末からミラノを代表する世界のファッション・ストリート、モンテナポレオーネ通りに、えっと驚く『緑』のインスタレーションが現れた。一流ブランドのブティックが競う同通りに、真っ白のFIAT500が20台並び、その車の屋根から『本物の木』が生えているのだ。実際はFIAT新車とまったく同じサイズ・同じフォルムのコピーをファイバーグラスで作り、それを「鉢」としてそこからカエデやオリーブ、ゴムの木などが植えられている。「インスタレーション」は、イタリアのコンテポラリー・アーティスト、ファビオ・ノヴェンブレの作品。この『20本の植木』、ちょっとした『観光スポット』

となり観光客や買い物客の目を楽しませおり、9月30日まで実施の予定だ。

緑が少ないといわれてきたミラノだが、ミラノの得意芸、「オペラ」や「ファッション」と組み合わせ、一味違った『緑化作戦』が進行しそうだ。



ミラノを代表する世界のファッション・ストリート、モンテナポレオーネ通り

また、これからの時期、秋台風の接近も考えられますが、そのときによく使用される風の予報に「非常に強く」

天気予報での風の強さの表現

新聞やテレビの天気予報を見たり、聞いたりすると、風の子報で「北の風がやや強い」や「西の風が強い」などの表現があります。この「やや強い」や「強い」は気象庁の基準にのっとり使用しています。

表に平均風速と予報用語、人への影響、屋外・樹木の様子を示しました。

「やや強い」は平均風速が10～15m/s未満の風が予想されるときに予報で使用され、このような風速では風に向かって歩きにくく、傘がさせなくなります。「強い」は平均風速が15～20m/s未満の風が予想されるときに使用され、転倒する人も出てきます。そして樹木の小枝が折れるようになります。低気圧の接近・通過時や日本付近の等圧線の間隔が狭い冬型の気圧配置のときなどによく見たり、聞いたりする、風の強さを表す予報です。

平均風速(m/s)	予報用語	人への影響	屋外・樹木の様子
10以上15未満	やや強い風	風に向かって歩かなくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。
15以上20未満	強い風	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。	小枝が折れる。
20以上25未満	非常に強い風	しっかりと身体を確保しないと転倒する。	
25以上30未満		立っていられない。屋外での行動は危険。	樹木が根こそぎ倒れはじめる。
30以上	猛烈な風		

気象庁HPより

樹が何本も倒れ、橋の上で横転したトラックを見たことがあります。屋外に出るのが危険な状態になります。表中の平均風速はあくまでも平均であり、瞬間風速はこれの1.5から3倍になることがあります。また風は地形や周りの建物の影響でも強弱します。天気予報の天気と同時に風の強さにも注目してほしいものです。

日本気象協会 金野 雅之

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三(映画監督)
- 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)
- 顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
- 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株)JALUX特別顧問、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
- 支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麗理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2009年09月28日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アンス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)H K I アキス、(株)エイブ'ルシステムズ、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚バレジ、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャンドウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマンサバ'ルジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常盤興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)グ'イエーコンサルツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCトレーディング(株)、(株)哲研、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレ'ータ(株)、東北電力(株)、ト'ヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オー'ス・エレ'ータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、ネスレコンフィニオナリ(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パ'ロクジャパンリミテッド、(株)ワールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、ブ'ラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマルックス、マイナ'ホールディングス(株)、(株)まるまんファイオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)フ'ンゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

編集後記

自民党と民主党が四つに組んだ政権選択の総選挙は8月30日行われ、民主党が勝ち、社民党などとの連立政権が誕生した。新政権が発足して日本の観光・都市・環境政策が大きく変わるのか関係者の関心が高まっている。民主党は選挙前に行政の官僚主導から政治主導への転換を掲げ、鳩山内閣は各省庁に「記者会見や政策の見解は大臣など政治家が行い、事務次官など官僚による会見、取材対応を禁止する」との方針を決めて指示した。これは自由な行政・言論を封じこめようとするものだ。

内閣の担当者は「政治が責任をもつということで、言論統制ではない」と弁解しているが、国民は客観的な複数の行政情報を求めている。官僚にも自由に会見や取材対応を認めて国民の判断に任せるべきではないか。私は東京・霞が関の公務員の仕事ぶりを長い間、見てきたが、各省庁とも大臣など政治家とは常に連携して政策を検討、立案してきた。民主党はこうした現状を直視し、肩の力を抜いてバランス感覚のある政権党らしい安定感を求めたい。

(白澤)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます



〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13  
 小田急代々木ビル3F  
 電話 03(5304)9500  
 FAX 03(5304)5632  
 E-mail info@japannow.org  
 Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)  
 編集長: 白澤照雄(JN協会事務局長)  
 発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど